平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第1回専門家委員会
資料－2

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆危機管理分野			
＜猪名川＞ ①災害時要援護者の対応は、自治体が考えることではあるが、できれば、直轄も一緒に福祉施設の方を集めて、一緒に議論することは有意義である。	＜桂川＞ ②指標「災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令基準の明確化及び周知体制整備の内容」については、進捗を示す記述の中に要援護者に特化した内容が含まれていないので工夫していただきたい。 ③まるごとまちごとハザードマップの全体計画量は示せるなら示すべき。また、取り組みは自治体によって差が大きいと思われる。その主要因は水害頻発地域のために関心が高いことから進んだとも考えられるが考察してはどうか。 ④地下空間の利用者及び管理者への情報伝達体制整備内容については、避難確保計画の策定数を記述するなど進捗を示す工夫していただきたい。	③ まるごとまちごとハザードマップについて、設置箇所は自治体の判断となり、河川管理者による主体的な全体計画量を示すことは困難ですが、設置市町村数割合を「まるごとまちごとハザードマップ推進率」として引き続き状況を記載しています。（治水P199、200）	① 自治体と協力しながら、水害に強い地域づくり協議会や流域総合治水対策協議会等を通じて、議論していきます。 ② 個人情報保護の観点から、各自治体が苦慮されているのが現状であることから、工夫されている事例収集等を実施することを検討課題にしていきます。なお、平成27年度には、水防法改正に伴う災害時要援護者を含めた避難に関する説明会を実施（高槻市）、また長岡京市において災害時要援護者に対する誘導も含めた防災訓練を実施しています。 ③ 設置箇所は自治体の判断となり、河川管理者による主体的な全体計画量の計上は困難ですが、水害に強い地域づくり協議会を通じて、状況を確認していきます。 ④ 現在、大阪市・京都市等の地下街等所有者において、避難確保計画を策定中ですので、策定状況を確認していきます。
◆治水			
＜桂川＞ ①流域の模式図に各ダムの集水面積や諸元の他、今回の台風における雨の情報などを記載することで、水系全体を俯瞰出来るような工夫をお願いしたい。 ②例えばダムの統合操作について時間軸を合わせて各ダムの状況をＡ３版１枚に示すなど、日吉ダム以外のダムについても効果をアピールする等の工夫をしてはどうか。 ③水防に関する講演・出前講座の回数が平成23年から減っている。講座を受けた方は習熟されると、講座が必要なくなったり、講座を受けた方が自ら講習をされたりといった状況が推定される。こういった場合、今後も減少していくことが想定されるので、指導者の育成の観点を追加する等の工夫をしてはどうか。	＜桂川＞ ④総合治水に関する指標では桂川を「該当無し」としている。整備計画策定当初は猪名川しか計画はなかったかもしれないが、桂川流域でも推進していくべき項目なので、このような指標も情勢の変化に伴い見直してはどうか。 ＜猪名川＞ ⑤総合治水対策について、水を貯める能力を上げるということだけではなく、水がきても大丈夫なエリアがどれだけ増えたかという進捗点検もするべき。こういうエリアが面積的にどれだけ増えたかという形で評価するべき。 ⑥総合治水対策について、保水、例えば雨水浸透桝の整備についても整理して欲しい。経年的に見たいし、評価も大事。 ⑦総合治水対策について、各市町の条例など、数字以外の法律的な点も評価に入れて頂きたい。	① 流域の模式図に各ダムの集水面積や諸元を記載しました。（治水P255～257） 桂川で氾濫危険水位を超過した平成26年8月台風11号出水について、水位や雨量の情報を記載しました。（治水P237） ⑦ 現在施行されている総合治水に関連する条例について、参考として記載しました。（治水P218） ・滋賀県では、滋賀県流域治水の推進に関する条例が施行された。 ・兵庫県では、総合治水条例が施行されている。	② ダムの統合操作による効果について、これまでも広報を行ってきたところであるが、情報発信方法についても更に工夫していきます。 ③ 平成26年度も講演、出前講座回数が減少していることも踏まえて、講座を受けた方等にアンケート等を行い、実態把握していくことを検討課題にしていきます。 ④ 各河川を一通り議論した後、全体河川を対象に、観点や指標、評価方法、対策手法等について必要に応じた見直しを行います ⑤ 水がきても大丈夫なエリアの把握となると、非常に困難ではあるが、指標化出来るかについて、今後流域治水対策協議会の場で検討していきます。 ⑥ 雨水貯留施設等の整備状況について、流域治水対策協議会を通じて整理していきます。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第1回専門家委員会
資料－２

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆人と川とのつながり			
＜桂川＞ ①「住民・住民団体（ＮＰＯ等）との連携状況」の観点において、「河川愛護活動等の実施内容・回数」の指標は、クリーン作戦や観察会の開催内容と回数が報告されているだけで、何かを開催して参加者が集まったという報告だけではどのように連携したか不明確。各主体がどういう役割分担で何々を実施したという記述に工夫してはどうか。 ＜猪名川＞ ②進捗点検に関して、（河川管理者が主導する）河川レンジャーの活動以外にも市民団体がたくさん活動しているが、数字には挙がってこない 実施内容が直轄区間の河川管理者だけの内容ではもったいないので、市民団体などの他の活動もあることはコメント的にでも書き込んで欲しい。	＜桂川＞ ③指標「住民、住民団体との交流内容・回数」の観点は、「意見聴取手法の開発に向けた取り組み」である。現地見学会は従来から実施されていると思うので、その回数の推移を確認するだけでなく、参加者が集まりやすいように工夫したことなども添えれば分かりやすい。 ④ホームページや携帯サイトへのアクセス数については、アクセス数が増加していることから広報活動がうまくいっているように伺えるが、この時期はスマートフォンが飛躍的に普及した時期でもあり要因の分析が必要ではないかと推測される。 ＜猪名川＞ ⑤市民活動による毎年のゴミの処理量や全体量に対する貢献度、水生生物調査やパックテスト、外来種の駆除の結果について参加者への励みとなるよう示して欲しい。 ⑥水質調査や生物調査そのものより、人がそれに関わってどのように意識を醸成しているかというあたりが重要だと思うので、意識変化などのポイントを記述して欲しい。	① どのような団体と連携し、どのような活動を実施したか等を記載しています。（人川P14～P17） ② 河川協力団体の取り組み等、市民団体等の活動についても住民・住民団体（NPO法人）との連携状況の中で記載しています。（人川P14～P17） ③ ワークショップ形式で取り組んだ事例を主に記載するようにしています。（人川P36、37） ⑤ 市民活動等と連携して実施したゴミの処分量や水生生物調査やパックテスト等の取り組みを記載しています。（人川P14～P17、P28-31） ⑥ 出前講座参加者等に対して、水質調査や生物調査を実施するだけで無く、その解説を通じて自然環境の現状を知り、河川への関心を高め、河川の自然環境保全の重要性を理解してもらった事例を記載しています。（人川P27）	④ アクセス数の分析も進め今後ともホームページ等による広報活動について更に検討していきます。 ⑤ 市民活動による各種取組の結果について、ゴミの処分量等について記載していますが、参加者への励みとなるような表現の方法について更に検討していきます。 ⑥ アンケート調査を行う等の方法により、水質調査などに関わって、意識変化があったかについての意見を集約していきます。
◆河川環境			
＜桂川＞ ①堆積土砂の掘削において、観点の趣旨を考慮して、土の処分で有効利用されていれば、その内容を報告書に記述した方が良い。 ②「河川環境の保全と再生のための人材育成の実施内容・回数について」、観点の趣旨を考慮して、担当者会議や水質事故講習会でどのような内容が実施されたかが記載されていると良い。	＜桂川＞ ③ボタンウキクサが見られなくなったから駆除作業をしなかったとの記述があるが、これはこれまでの対策に効果があったから見られなくなったのであり効果が上がったとの評価を記すべき。	① 堆砂土砂を撤去した土を南湖湖底改善事業等に活用していることを記載しています。（環境P153） ② 担当者会議の内容について記載しました。他の取組内容も含め引き続き記載を行って行きます。（環境P185） ③ ボタンウキクサの駆除に関しては、平成20年度から5月頃より継続して早期の回収を実施したことにより、平成26年度も大量発生しなかったことを記載しています。（環境P82、97）	

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第1回専門家委員会
資料－2

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆利水			
	＜桂川・猪名川＞ ①既存ダム（日吉ダム）の運用について、舟運等で必要となる渇水流量を減らすことにより「貯水量の温存」に効果としているが、利水という立場からすればむしろマイナスの評価。プラス面とマイナス面をイーブンで記載すべき。 コントロールする立場からすれば、安全側を見てという立場にならざるを得ないところもあり、両方の立場があるので表現を上手くする必要がある。 ②河川整備計画を策定するときの水融通の議論では、抑制がための抑制ではなくて、いかに調整できるかに力点があった。利水者会議のなかで議論していく内容については、減らすことが目的ではなく、いざという時にどれだけお互いに水を出し合えるかの助け合いの精神で対策を作っていくことに目的を置くべき。		① 既存ダムの運用について、放流量の調整によるプラス面、マイナス面があると思いますので、様々な方の意見も聴きながら、表現についても工夫していきます。 ② 今後の水利用検討会等で議論を進めていきます。
◆利用			
＜猪名川＞ ①「川らしい利用」について対象者に、釣り人とかレジャーの人が明記されていない。例えば淀川の三川合流部付近では、舟運の動きがあり、そこに釣り人やレジャーボートが入ると川の幅の中で相互に利用が出来なくなるんではないか。規制できるかどうかはわからないが検討項目として挙げて頂きたい。	＜桂川＞ ②学習機会の実施回数を評価しているが、川の利用に結びつく活動だったのかという視点で内容を評価する必要がある。 ③水源地域の活性化に関する指標では、日吉ダムの水源地域ビジョンの推進状況について、イベントを行ったことや、その来場者数が記述されているが、この水源のビジョンの最終的な目標として、その水源地が健全な水源地であるためのビジョンが策定され、推進されているはず。健全な水源地であるべきというところにどれぐらい寄与し得るかどうかの視点で定性的でもいいので記述を工夫していただきたい。 ＜猪名川＞ ④川らしい利用と銘打っている限り、利用の中身が川らしい利用になってるかを見ることが必要。川らしい利用がどういったものかをリストアップし、実際の利用がリストアップしたものにどれくらいの割合で達しているかを評価することも一つの方法である。	②④ 川らしい利用として、地域ぐるみの水辺活動の継続・広がりをつくる取り組みを記載しています。（利用P297,298）	① 釣りなどレジャーでの利用について、今のところ河川利用相互間に特段の支障は生じていないが、河川利用の状況について経過観察に努めていきます。 ③ 水源地ビジョンに対する取り組みが健全な水資源にどれぐらい寄与しているのか、関係機関等からる協議会や連絡会を通じて確認していきます。 ④ 「猪名川・藻川河川保全利用委員会」等において川らしい利用のリストアップや評価手法の検討を行います。
◆維持管理			
	＜桂川＞ ①「河道内樹木の伐採内容・伐採面積」や「堆積土砂の除去内容・掘削量」と、河川環境における「既設ダムおける弾力的運用等の検討内容・魚類確認数（地形変化を促すための検討状況）」とはお互いに関連しあうので相互に評価対象になるよう記述を工夫していただきたい。		① 各河川を一通り議論した後、全体河川を対象に、観点や指標、評価方法、対策手法等について必要に応じた見直しを行います。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

平成27年度淀川水系流域委員会
第1回専門家委員会
資料－２

◎進捗点検の方法や指標に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆全体			
＜桂川＞ ①「前年度指摘事項の対応方針（資料－２）」の意見は、対象河川に限った内容ではないので、対応方針は対象河川以外の内容も回答する必要がある。 ＜猪名川＞ ②全体的な印象として、回数だけの進捗だけで、各事業の目標やメッセージが伝わって来ない。指標全体を俯瞰するものが必要。 ③指標と観点に関して「こういう活動を実施する」だけでなく、「こういうところを目指しているため、そのアプローチの仕方を色々工夫している」など整理をすると分かりやすい。 ④これまでも、いろいろ議論しているが、各河川を一通り議論したら、河川ごとの特徴に応じて、どういう観点でどのような指標を加える等の議論をすることは必要。	＜桂川＞ ⑤平成２５年台風１８号に関しては、治水や河川環境等の各分野に及ぶケースであることから良い点検材料である。特別警報や避難勧告の発令などの危機管理に関するマターがどのようなタイミングだったかも含めると、他の分野も交えて総合化が図れると良い。 ⑥指標の評価として進捗が把握される数量が計測されたらそれで完了ではなく、その数量によりどのような波及や効果があったのか、指標の目的が達成されているかどうか、を文章化していくことが大事。 ⑦指標の一覧のうち、平成２５年度進捗として「該当無し」とされた指標には、別の指標にて実施された取り組みにより効果は得られたというケース等もあるように伺える。進捗点検は事業実施の進捗を点検するものではなく、整備計画に掲げた目標がどの程度達成されたかを確認するものと考えている。 ⑧桂川を対象とした進捗点検結果の審議であるが、資料には桂川以外についても記載されており、桂川の事例なのか、他の河川の事例なのか混乱する場合もあるので工夫していただきたい。 ⑨全ての指標が定量的に評価できるものではないので、指標によっては定性的な特出しの記述も重要。 ⑩実施した回数だけでなく、成果を拾いあげて、このようなことが新しく分かってきたことなども示すことができれば良い。	②③⑥⑨⑩ 各事業や取り組みの目的や、そのアプローチの仕方、どのような効果があったか等を定性的に記載しています。（人川P11他） ⑧ どの河川での取り組みかが分かるように記載しています。	①④⑦ 各河川を一通り議論した後、全体河川を対象に、観点や指標、評価方法、対策手法等について必要に応じた見直しを行います。 ⑤ 水害に強い地域づくり協議会等で取りまとめた特別警報や避難勧告等の危機管理に関する活動内容を他の分野に加えて総合化出来ないか検討していきます。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆危機管理分野			
＜桂川＞ ①カラー量水標の設置は、景観に配慮しつつ設置を増やすことで、住民が自ら見て、自ら判断して、自分の責任で逃げる「自助」につながるため、ぜひ進めてほしい。 ②量水標は堤外側に設置するものであるが、高い堤防の場合には堤内側にも設置するような工夫で、増水時の水位と堤内地の高さ関係を理解でき、危機管理意識の醸成になると思う。 ③防災意識を高めるためには、地域の中で防災として活用できる資源を住民が掘り起こし自助だけでなく共助の段階まで提案できるような仕組みについても言及できればと思う。 ④観点「破堤氾濫に備えた被害の軽減対策、避難体制の整備状況」に関して、今後は外水氾濫に限らず一連として内水氾濫も踏まえた避難も視野に入れていく必要があると思う。	＜桂川＞ ⑤避難勧告等が発令されても、避難率は１％程度という報告もある。行政側と住民側の間に生じる危険性の認識の乖離について、その原因や問題の分析をする必要がある。 ⑥整備局では水害が発生する相当前の時点から水系全体で降雨の状況等を把握されていると思う。そのような情報は、基礎自治体では把握できないだろうし一般住民にもは分からないが、提供したり啓発していくことも有効かと思う。 ⑦防災マップにおける浸水範囲と、実際に浸水した事象について整合がとれているか確認が必要であり、異なる場合には修正するべき。 ⑧ハザードマップを作成する際には、例えば桂川流域では府が管理する範囲も広いことから河川管理者毎に作成する浸水想定区域図を集約したうえで、流域の状況を整理する必要があるかと思う。	④ 水害に強い地域づくり協議会等において、内水氾濫も踏まえた避難体制について勉強会を実施しているところです。（治水P206～P207） ⑥ 市町村向け「川の防災情報」において、沿川市町村に水位予測等の情報の提供を開始しています。一般住民へは、ケーブルテレビを活用したCCTV映像配信、事務所HPでの水位情報配信を行っているところであり、これら情報についてPRに努めています。（治水P195） ⑧ 管理者毎の浸水想定区域図を市町村が集約し活用されています。	①② 頂いたご意見も踏まえ危機管理意識の醸成に努めていきます。 ③ 水害に強い地域づくり協議会等を通じて、確認していきます。 ⑤ 水害に強い地域づくり協議会等で実施する避難行動に関するアンケート結果を確認していきます。 ⑦ 実災害における浸水範囲の把握に努め、シミュレーション結果と差異がある場合は、整合が図られるよう精度向上に努めていきます。
◆治水			
＜桂川＞ ①河道掘削工事では、土砂の搬出行程や搬出先の調整に苦労しているようだが、その成果とし水位低下効果が発現したことがよく分かった。他の流域でも治水対策を進めて頂きたい。 ②洪水調節の効果的な実施に関して、既設ダムの容量を最大限に活用するような操作として「弾力的な運用」と表現されているが、操作や運用として規定のルールがあるため適切ではないと思う。誤解を招くことにならないよう、相応しい表現が望まれる。 ＜猪名川＞ ③上下流バランスを考慮して実施しているというが、具体的な内容の記述がないので、自治体連携も含めて伝わってこない。 上下流を含めた安全度の状況がわかる情報があると、住民にも防災に対する意識の向上になる。	＜桂川＞ ④平成２５年の出水を用いた、計画高水を作ったモデルの整合性の確認が必要であると思う。また、ダムの運用については利水貯留を最初から予見して吐き出す等の工夫ができないか一歩進めた検討をしてはどうか。 ⑤上下流バランスの観点として、河川管理者の連携が重要である。しかし、進捗点検の中では触れられてないことから、上下流バランスの状況など点検項目が必要ではないか。 ⑥「マイ防災マップ作成の手引き」は、ホームページに掲載するなど広く広報しては。 ＜猪名川＞ ⑦水防団関連項目の「進捗なし」については、実際に活動している水防団の情報を評価に入れる必要がある。また、側帯整備の「進捗なし」というのは、すでに完了しているのであれば、完了済みとした方が適切。 ⑧進捗を評価する指標とその内容が合わないところが散見される。記述内容の工夫を行うこと	④ 平成25年台風18号出水については、計画高水検討時に作成したモデルの条件等を検証し再現を実施しています。利水貯留の活用については、水利用検討会等で議論も踏まえ検討を進めていきます。	① 頂いたご意見も踏まえ、事業効果の説明も行いながら治水対策を進めていきます。 ② ダム運用はダム毎に定められた操作規則にそって実施していますが、平成２５年台風18号出水の洪水調節にあたっては下流の河川水位や降雨の状況を見ながら複数のダムで連携した操作を実施し「弾力的な運用」と表現しました。誤解を招かないように丁寧に記載していきます。 ③ 神崎川、猪名川直轄管理区間及び猪名川指定区間の河川整備については、上下流バランスに配慮し、河道掘削等の段階的な実施（実施時期、方法）について関係機関と調整しながら進めているところです。住民にもわかりやすい情報発信に努めていきます。 ⑤ 各河川を一通り議論した後、全体河川を対象に、観点や指標、評価方法について必要に応じた見直しを行います。 ⑥ 住民に分かりやすくホームページに記載していきます。 ⑦ 各河川を一通り議論した後、全体河川を対象に、観点や指標、評価方法、対策手法等について必要に応じた見直しを行います。 ⑧ 指標と観点に沿った点検内容となるようにまとめていきます。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆人と川とのつながり			
＜桂川＞ ①淀川管内河川レンジャー活動分布図において、治水の活動が少ない。近年は水害が毎年発生していることもあり危機意識は広がっていると思われるので、人と川とのつながりを促進する観点としては治水は有効な分野だと思う。 ②河川レンジャーの公募に際しては、多様な応募者が集まるような公募方法の工夫が必要であると考える。 ③事業説明会、工事説明会、ワークショップ等の開催回数が報告されているが、しっかりと議論できるワークショップは住民と行政の新たな関係を作る場として有効な手法であると考える ④住民参加推進プログラムの実績に、水害発生時の避難体験として水中歩行があるが、確実に安全につながる取り組みなので是非推進していただきたい。 ⑤河川に関する広報活動を実施しても、興味のある人しか見ない（来ない）ものなので、別のイベントに併せて広報すれば効果的だと思う。管内の様々なイベントの度に実施してほしい。また、広報の手法に関しては、例えばパネルの展示より模型やジオラマの方がわかりやすく、子どもも興味を示すと思う。 ＜猪名川＞ ⑥猪名川には出在家防災ステーションがあるが、平時の活用で目立ったものがない。特に平時利用に際して、河川レンジャーの活用を考えられないか。 ⑦内容に寄っては実施回数が増えれば良いというものでもないと思う。年度によって対象を変えながら、目標設定をし、来て欲しかった人（対象）がこれくらい達成できたという評価もある。	＜桂川＞ ⑧水源地ネットワークの交流は、いろんな点検項目と関係しあうので連携しながら進めるべきである。	③ ワークショップ形式で取り組んだ事例を主に記載しています。（人川P37） ⑤ 「ウォーターステーション琵琶」で活動するＮＰＯ団体と連携してイベントを実施し、クイズラリー等子供にも興味を持って学んでもらえるような工夫を行っており、その内容を記載しています。（人川P12）	① 治水の重要性を住民に伝える方法について検討し、河川レンジャー代表者会議・運営会議等で、伝えていきます。 ② 河川レンジャー代表者会議・運営会議等で公募方法等を議論するなど今後の検討課題にしていきます。 ④ 引き続き、水害体験施設等を活用しながら防災学習を実施していきます。 ⑥ 防災ステーションの平時におけるレンジャー活動での活用については、今後河川レンジャー会議、河川レンジャー運営検討委員会で検討していきます。 ⑦ テーマや対象者毎にグループ分けし、その目的が達成できたかなどを把握するなど今後の検討課題にしていきます。 ⑧ 水源地ネットワークの取り組みにおいて、関係する点検項目については関係者と連携を図って進めていきます。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆河川環境			
＜桂川＞ ①堰の撤去や、堰の改良による魚道機能の向上について、鮎の遡上など全体としての効果を期待します。 ②河道の掘削工事や堰の撤去工事において環境への配慮がなされているが、そこに住んでいた生物たちにどんな影響を与えたのか、モニタリングをしっかり実施することが重要である。 ②アンジュレーションの経過をモニタリングしていくことが重要だと思う。 ③淀川流域における外来種のブラックリストを作成して、その対策の内容や状況を整理することで対外的に取り組みを説明しやすくなるのではないか。） ④ヌートリアを駆除しようと思っても、制度上、市民活動で実施することは容易ではない。河川環境への影響との理由で許可がでた事例もあるので、何か工夫できないか。 ⑤人材育成として、技術力の保持・伝承・向上を図る取り組みを実施しているとのことであるが、知らないことが多いのが現状であり、それをどう行き渡らせるかということが課題ではないか。	＜桂川＞ ⑩河床にたまった土砂は資源である。川の中で土砂が動くダイナミズムを保持することは環境上重要であるため、河道掘削の工事は固まった土砂を動かせるチャンスである。 ⑪川らしい自然環境の保全・再生について、占用者に対してだけではなく、利用者に対して働きかけていくことも重要。 ＜猪名川＞ ⑫河道内の不法投棄に対するＣＣＴＶ設置の効果が見えてこない。 「ただいま監視中」といった看板も始めは効果があるが、段々と効果が薄れていく。 ゴミの処理量の集計結果について、台風のゴミの量と一般のゴミの量が分けられれば、もっと明確な対策が考えられるかもしれない。 住民による自主的なパトロールなど、実際に摘発に繋がるような効果的な方法を行うことが大事。	① 堰の撤去や改良による効果について、引き続きモニタリングを実施し、結果を記載していきます。（環境P117～P119） ③ 侵略的外来種ワースト100（2011.7）を作成済みです。	② 引き続き、学識者の助言・指導を頂きながらモニタリングを実施していきます。 ④ ヌートリア駆除における課題や問題点等を収集し、関係機関と調整を図っていきます。 名張市では、地域ぐるみの協力体制により捕獲を円滑、効果的に進められる配慮として、鳥獣保護法によるわな猟狩猟免許がなくても、届け出により捕獲ができる施策を行っています。 ⑤ 引き続き技術力向上を目的とした勉強会等を行いながら、人材育成に努めていきます。 ⑦⑧ 住民参加型の取り組みについて、今後とも検討していきます。 ⑨ 引き続き、学識者の助言・指導を頂きながらモニタリングを実施していきます。 ⑩ 引き続き、河道掘削実施においては、学識者の助言・指導を頂きながら、環境に配慮し実施していきます。
⑥外来種は、増える前に手を打つことが得策。大川でボタンウキクサが増殖したことがあったが、事務所の取り組みにより根絶できたことで今では見られなくなったことは対策の効果である。 ⑦堰の簡易改良を住民参加で取り組むような活動は地道に続けてほしい。啓発活動や次世代につながる。 ⑧市民にできる活動を市民に近いところで指導して下さる人材の育成をお願いしたい。 ⑨魚道の改良を工夫して取り組んでいる姿勢は良い。	⑬外来種対策について、猪名川の場合は、上下流において大阪府、兵庫県管理河川、直轄区間があるが、府県と連携した戦略的な対応をお願いしたい。 ⑭本川アユの産卵と土砂還元の関係性について、ダムからの還元土量よりも河床掘削をしたときの土砂のダイナミズムの促進によってアユの産卵床に相当するところができている可能性がある。モニタリングについては漁協へ掘削箇所及びアユの産卵床が出来る可能性があることを情報提供し、漁協から実際のアユの産卵場所の情報を提供いただけば良いのでは。	⑥ ボタンウキクサの駆除に関しては、平成20年度から5月頃より継続して早期の回収を実施したことにより、平成26年度も大量発生しなかったことを記載しています。（環境P97）	⑪ 引き続き、河川保全利用委員会等を通じて、占用者に対して利用者への周知方法等を確認していきます。 ⑫ 河川区域内への不法投棄対策として、啓発活動や警告看板設置を行うほか、空間監視用ＣＣＴＶの活用など、地元及び関係機関等と連携して、不法投棄是正に向けた取り組み方法を検討していきます。 ⑬ 直轄管理区間の上下流の河川管理者（府県）と情報を共有しながら、外来種対策を進めていきます。 ⑭ 漁協からアユの産卵床に関する情報について意見交換を行い、河床掘削後の土砂のダイナミズムの促進についても、モニタリングを進めていきます。

平成２６年度　淀川水系流域委員会の主な意見に対する対応方針
【地域委員会・専門家委員会一覧表】

◎事業の実施手法や進め方、実施結果等に関する主な意見（桂川・猪名川）

地域委員会意見	専門家委員会意見	取り組み状況及び平成26年度報告書への反映	今後の対応方針
◆利水			
＜猪名川＞ ①慣行水利権の許可化について、かんがい用水は、環境用水としての役目も果たしている。そういった観点も勘案することが必要。	＜猪名川＞ ②昔から化学物質による汚染を受けるリスクを有する川であった。ＢＯＤやＣＯＤ等だけでなく、流域のリスク因子が現在どれだけ存在していて、それらのリスク因子は昔に比べて減っているのかといった、専門的な視点も必要ではないか。		① 頂いたご意見を踏まえ、慣行水利権の実態把握に努めていきます。 ② 化学物質に対する水質監視を継続的に実施しながら検討していきます。
◆利用			
＜猪名川＞ ①不法耕作是正事例ではフェンスで囲って入れないようにしているが、逆に是正前より殺伐としている印象を受ける。有効な利活用出来ないか。	＜桂川＞ ②不法投棄対策はもっと積極的に取り締まっていただきたい。		① 猪名川の事例は廃川後、伊丹市に市道敷として引き渡す予定の土地である。伊丹市とともに上流部の不法占用の是正等、廃川手続きを順次進めていきます。 ② 引き続き関係機関と連携して取り組んでいきます。
◆維持管理			
＜桂川＞ ①河道内樹木の伐採後の処分に関して、希望者には伐採した枝や幹を提供しているが、伐採作業についても希望者が行えるようにすれば、河川の維持管理における市民参画や、更なる事業コスト縮減に効果があると思われる。 ＜猪名川＞ ②河道内樹木の伐木の無償配付について、配付などの休日対応も出来れば、利用したい方はもっといるのではないか。	＜猪名川＞ ③河道内木の伐木の無償提供について、利用状況としては「まだまだ」であり促進対策が必要。都道府県あるいは市町村が進めている里山運動あるいは森林の利活用についての活動と連携すると効果あるのでは。		① 更なる伐採作業の公募等の取り組みを検討していきます。 ②③ 今後、防災演習、河川愛護月間等人が多く集まるイベントなどの場（流域市町等他機を含む）において、積極的に広報活動を行っていきます。
◆全体			
＜桂川＞ ①ダムにはいろんな逆風もあるが、効果があったことはしっかりと発信するべき。ホームページでの広報や、記者発表では弱いと思うので工夫が必要。 ②事業の進捗を進捗するためには、費用を増やすべきか、中身を変えるべきかといった議論も必要ではないか。 ③河川管理者のみで実施できることには限界があるため、河川レンジャーや地域へ任せる等、担い手の意向を考えるべき。	＜桂川＞ ④指標のうち河川管理者ではなく自治体が主体的に進める施策について、進捗が滞っている場合には、河川管理者から情報提供等の支援できる措置があるのか、その要否も含めて検討する必要があるのでは。	③ 平成26年度より活動が始まった河川協力団体の活動についても記載しています。（人川P16）	① ダム操作による効果について、これまでにも広報を実施していますが、更なる情報発信の方法を工夫していきます。 ② 事業効果等を確認しながら今後とも適切に進めていきます。 ④ 今後とも自治体と連携を図り、情報共有を行いながら調整していきます。